

○ 人事官の任命同意に関する件

【質問のポイント】

1. 国家公務員の働き方改革を進める上で、テレワークの推進について見解を伺う。
2. 自然災害が頻発化する中、被災地支援に従事している技術系職員の採用や処遇改善に関する見解を伺う。
3. 定年延長が進められる中、民間交流等を含めたキャリア形成に関する見解を伺う。

本日の会議に付した案件

○ 本会議における総務大臣の報告及び議案の趣旨

説明聴取並びにこれに対する質疑に関する件

○ 本日の本会議の議事に関する件

○ 参考人の出席要求に関する件

○ 人事官の任命同意に関する件

○ 委員長（水落敏栄君） ただいまから議院運営委員会を再開いたします。

（略）

○ 委員長（水落敏栄君） 次に、人事官の任命同意に関する件を議題といたします。

候補者から所信を聴取いたします。川本裕子さん。

○ 参考人（川本裕子君） 川本裕子でございます。

本日は、このような機会を与えていただきまして、大変にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

（略）

○ 宮崎雅夫君 自由民主党の宮崎雅夫で

ございます。

時間が限られておりますので、早速質問に入らせていただきます。

冒頭、川本参考人から所信をお伺いしたわけですが、具体的な三つの課題という点でもお聞かせをいただいで、非常に心強く思ったところでございます。まず、一つの質問なんですけれども、これまでの質疑の中でもちょっとお話しもございましたけれども、テレワークについてお伺いしたいと思うんですが、川本参考人も御勤務の中でもテレワークもやられたというふうにもおっしゃっていただきました。

でも、今、各省庁でコロナ対策というところで、今、緊急事態宣言下でもありますので、70%、これ各省庁で目標にやっていると、これは国として率先して当然取り組むべきもの



だと思えますし、当然、これプラスの面、働き方改革を進めるとい意味でのプラスの面ということもあると思えますし、テレワークに慣れれば、まあ多少課題はあってもうまく進められるというところもあると思うんですけれども、やはり今年急激に進めてということもあって、それぞれの公務員の皆さん方、やっている公務員の皆さん方からすれば、今まで周りに同僚がいていろんな相談がすぐできたり、またチームでやはりやる仕事も多いということもあるので、いろんな思いも持っておられるのではないかなと思うんですけれども。

これから国家公務員、テレワークも進めていかないとけないと思うんですけれども、どのように進めていいたらいのかというお考えについてお聞かせいただければと思います。

○ 参考人（川本裕子君） テレワークについては、首都圏で平均二時間と言われる通勤による時間的、肉体的負担の軽減、時間の効率的な利用、仕事と家庭生活との両立の支援、災害などの非常時における業務継続に資する方法として大変に効果的であると認識をしております。私も、昨年度は全ての授業、講義をテレワークといいますがオンラインで行いました。

一方で、テレワークにおいては、職員がある程度自律的に職務を遂行し、上司による管理や指導の機会が少なくなるために、長時間労働につながる、孤立によるメンタルヘルスへの影響が生じたりするといった指摘もあります。また、時間と場所が管理してきた上司が、テレワーク環境では部下の勤務管理をすることがなかなかできない、また違う技術でございまして、それができないといった問題が発生しているというふうに認識をしております。

今後の課題としては、職員の通信環境とか作業環境などの整備はもろろのこと、公務自体の業務の計画性を高めるということ、また効率化を図っていくということが非常に重要かと思っております。

○ 宮崎雅夫君 ありがとうございます。

二点目なんですけれども、昨日、東日本大震災から十年を迎えたわけですが、自然災害も頻発しているという状況でございまして、その災害からの復旧復興ですけれども、市町村の職員の方、特に技術系の方がなかなか限られているということがネックになっているというように指摘もあって、関係の省庁からも特に技術系の職員が被災地に応援に行く、で、活躍をしているというふうな認識をしておりますけれども、今後は、この災害の対応であるとか年齢構成のバランスの適正化というふうなことも含めて、積極的に技術系の職員の採用をした方がいいんじゃないかなと思えますし、こういった災害対応とか、厳しい環境で難しい業務をやっていく場合の処遇改善なんかに取り組んでいかないとけないんじゃないかなと思えますけれども、この点について川本参考人のお考えをお伺いしたいと思います。

○ 参考人（川本裕子君） 委員御指摘のとおり、災害対応を始めとしてインフラ整備、デジタル化など、技術系職員が活躍する分野は広範にわたっていて、様々



な行政分野において技術系職員に期待する役割が大きくなってきているものと承知しております。このような状況の中で、国においても技術系職員を積極的に採用していくことは重要な課題だと思っております。

他方、先ほども御議論にしましたけれども、近年の技術系職員の人材確保をめぐる状況はかなり厳しいものがありまして、そういうことを考えまして、採用試験の申込者も減少してしまっていること承知しております。やはり情報発信に努めて人材を確保することが非常に大事だと思えますし、一方で、技術系、事務系問わずITリテラシーを高めていくということも必要なのではないかというふうに思っております。

あと、大変な業務に従事している職員の方たちですけれども、被災地での対応ですとか今回のコロナウイルス感染症への対応などにおいて、不眠不休で職務に精励されている職員の尽力には心から敬意を表したいと思います。

そのような職員の方たちに対してはしっかりと処遇を行うということが重要で、例えば、いろいろな地震とか災害に対処した職員に対しては特例を設けて手当額の増額を行って、今回のコロナウイルス感染症対策に従事した方たちに対しても特例を設けて手当額の増額を行っているというふうに認識をしております。

今後とも、緊急事態への対応などを行っている職員に対しては、その御尽力に報いることができるように、適切な処遇が行えるように給与制度としても適時迅速に対応する必要があると思えますし、処遇面だけでなく、健康面にも対応することが、目配りをするのが大事かというふうに考えております。

○宮崎雅夫 ありがとうございます。

なぜ技術系のことを聞いたかということ、私、以前、農林水産省で技術系の職員として三十年以上勤務をしたんですけれども、先ほど田村委員の方から、外部人材の公務員としての採用といいますが、そのお話もあつたんですけれども、私、三十年をちよつと自分なりに振り返ってみると、おかげさまでいろんな職場を経験できたなというふうに思っています。農水省の中でも、霞が関だけじゃなくて現場、まあ技術系ですから、現場の工事事務所であつたり海外の勤務であつたり、残念ながら民間はありませんでしたけれども、純民間ということではありませんが、民間間ということではありませんでしたけれども、政府系の金融機関であつたり地方公共団体なんかの経験をさせてもらったのは非常に良かったなというふうに思っているんですけれども。

それで、これから公務員の定年というのは延びていく方向に当然なってくるんだらうと思えますけれども、そういう長い公務員生活の中でいろんな経験をやっぱり積むと。特に、やはり民間の経験とこのを積ませるといふのは非常にプラスになるんじゃないかなと私個人では思うんですね。まあ聞くよりもやっぱり経験をしてみるといふようなことが大切だと思えますし、

また、そういう中で違う分野を勉強するとか、やはり学位を取るとか、そんなことも必要になつてくるんじゃないかなと思うんですけれども、それが幅広い人材をつくつ



ていくということにつながってくるんだらうと思うんですけれども、国家公務員のキャリア形成の中で、こういう点についてはどのようにお考えなのか、お伺いしたいと思います。

○参考人（川本裕子君） 委員御指摘のように、公務の効率的な遂行あるいは先端技術の吸収のために、民間の経験は大変に貴重なものだと考えております。

機会があれば、国家公務員の方たちも民間における経験を積むということもキャリア形成では重要だと考えております。人事評価上もそのような位置付けを考えていくべきではないかというふうに認識をしております。

○宮崎雅夫 もう時間が多分なさそうなので最後になると思うんですけれども、やはり霞が関の長時間労働なんかで、やはりブラックな職場だというふうな言われ方をすることが多いわけですから、当然それはもう改善していかないといけないということではあるわけですが、けれども、まあ自身の経験からいうと、相当前の話ですので、三十年前に比べれば相当改善されている部分というのも現実あると思うんですね。

それで、最初に、冒頭ですね、やりがいであるとか魅力について、国家公務員のことについてもお話をいただいたんですけれども、今、志願者が減ってきている状況の中で、どんどんどんどん、このいい面をですね……

○委員長（水落敏栄君） 宮崎君、まとめてください。

○宮崎雅夫 はい。発信をさせていただきたいというふうに思いますので、最後、御要望で終わりたいと思います。

ありがとうございます。  
(以下略)